

ブラジルで成した事業 故郷に

さいたま市岩槻区出身のプロサッカー選手・齊藤誠司さん(33)が主宰するセジニョサッカースクール(さいたま市)が開校2年目を迎えた。1993年のJリーグ発足に端を発し、今も裾野を広げ続ける育成の現場に、ブラジルで成功した育成システムで挑む。

埼玉のジュニア育成者

ブラジルに渡った16歳のときから、外国人の大人相手にひとりで自分を売り込んできた。その交渉の経験がのちの会社設立

につながる。25歳で選手とチームを結びつける代理人業を営む会社をおこし、現在、38人のスタッフとともに奔走。選手をチーム単位で欧州クラブの遠征先のトルコなどに送り、練習試合などを通して売り込んでいくという。これまで82人の選手を

各国のリーグや日本のJリーグでプロ契約させた。「ブラジルの会社で行っているのは育成からプロ契約までの一貫したシステム。このノウハウが日本でも強みになる」と自信を込める。現在も海外でプレーするプロサッカー選手だ。日本では昨年から地元の母校・さいたま桜山中学校で小学生のサッカースクールを開いている。「職業はあくまでサッカー選手だけど、同時に海外で培った経験を生かし

て故郷に恩返ししたい」。18歳でブラジル・サンパウロFC(U-23)からスタートしたプロ生活は15年目になる。南米をはじめ、ポルトガル、バレーンなど10カ国でプレーした。小中学時代は柏レイソルジュニアユースに所属し、16歳でスカウトされサンパウロに渡った。日本では18歳以下までの年別別日本代表に名を連ねた。

指導者への道は20歳の時。選手生活の傍ら「だいの子ども好き」が高じてサンパウロにサッカースクールを開いたのがきっかけだ。以来、プロ選手として訪れた5カ国でスクールを開いた。現在、生徒数は1025人。2年目の日本スクールでは約100人が学んでいる。ブラジル仕込みの技術練習を中心に「外国人の自分に対する人種差別を乗り越えてきた」というコミュニケーション力を子ども達に伝える。「思い出深いのは中東時代。チームメイトと打ち解けるため、1日5回、お祈りをもにしました」。

日本でのプロ輩出が当面の目標だ。「日本人としてサッカーで生きていくのに、Jリーグがすべてじゃないと子どもたちに伝えたい」。ブラジル会社の法人名は「プロ育成システム」。現地ではサッカー選手を運ぶ人という意味の「オフィシナ・クラクキ」で知られる。齊藤さんは愛称「セジニョ」の名で子どもたちの夢を乗せる。



子どもたちに教える齊藤誠司さん(1月6日、さいたま桜山中)

プロサッカー選手・実業家 齊藤誠司さん

て故郷に恩返ししたい」。18歳でブラジル・サンパウロFC(U-23)からスタートしたプロ生活は15年目になる。南米をはじめ、ポルトガル、バレーンなど10カ国でプレーした。小中学時代は柏レイソルジュニアユースに所属し、16歳でスカウトされサンパウロに渡った。日本では18歳以下までの年別別日本代表に名を連ねた。



齊藤誠司さんとスクール生たち(1月6日、さいたま桜山中)